

組織犯罪 自殺強要ストーキングとは

別名は集団ストーカーやガスライティングとも呼ばれている陰湿な間接的殺人犯罪です。

特定の集団で被害者に付き纏い、自声で罵声・本人しか知らない筈の個人情報で挑発・脅し、携帯電話やインターフォンなどで遠隔の声や提携音声(=定型:供給された別人の声の録音)の再生で付き纏う。重複しない様に計画的に複数が交代で繋げて聞かせるので1日24時間の連続した連日の嫌がらせ音声の付き纏いが完成する。

自殺強要ストーキング達がターゲット(被害者)とした人間が自滅するまで行われる。

被害者:トラブルなどが切っ掛けで恨み逆恨みから依頼主が存在し、特定の所へ依頼されて自殺強要ストーキングの被害者になる。

自殺強要ストーキング実行者達の間では被害者を「ターゲット」と呼称する。

特定の集団:依頼主を含む場合があり主軸となり他の実行者に指示を出す主犯グループ・悪用された防犯パトロール団体とボランティアを含む協力者と協力店・行為を商売にしている裏業者と裏業者が手配した実行者・報酬で加担する実行者・創価学会・SGI(創価学会インターナショナル)・警察などで、自分の子供を参加させる事もある。

※特定の集団=実行者は私個人の体験から導き出した物です。

個人情報:依頼された時点で通常では入手できない情報を特権を利用して合法的に取得する。

ターゲット(被害者)にしても自殺強要ストーキング側(実行者達)に不利が発生しないかを確認する目的もある。

特権を利用して合法的=防犯パトロール団体の元となる市区役所権限・政界進出部分での特権・警察権限など

被害者の自滅:計画的に連日24時間連続で嫌がらせ音声を聞かせ続ける事で精神異常を誘発させて、最悪の結果は自殺・衰弱死
精神的限界超過で錯乱(わめき散らす)で典型的な精神異常者・突発的な無差別殺傷犯罪・就労や生活まで追い詰めらるので生活苦による強盗や窃盗などの犯罪に至るまでに追込まれる。

自滅回避した被害者には自殺強要ストーキング側が複数なので無理やりにも数の暴力で何かしらの犯罪者や精神異常者に仕立て上げようと演出や演技が行われ始める。

時には被害者(ターゲット)を落とし入れる為に自殺強要ストーキング側の中に被害者を作り出そうとする。

遠隔で音声を聞かせてくるのも被害者に誤認させる為で言われ無き事実とする為だと思う。

自殺強要ストーキング実行者が一人二人で行っているなら別人の声を使っても取り押さえて証明できれば終わりだろうと予測する。

想像以上の複数なので数の暴力で無理やりねじ曲げて仕立て上げるシナリオも用意されていると思われる。

被害者が誤認し苦情を該当者に普通に訴えたなら分からないが、決め付けて逆上して訴えたなら待機していた他の自殺強要ストーキング達が現れて数の暴力で精神異常者に仕立てられる事も予想される。

自滅回避:よほど被害者の勘が良ければ別だろうが、やられている行為が自殺強要ストーキング(集団ストーカー)と知り得なければ有り得ないだろうと私個人は思っている。

自殺者の中には自殺強要ストーキング(集団ストーカー)と知らずに被害を受け既に犠牲になった人も存在すると思っている。

現状では自殺強要ストーキング(集団ストーカー)被害者の一部が被害者の会で繋がっている以外は、どの被害者も日常生活では孤立状態にさせられている様に思える。

これは被害者のホームページや掲示板・ブログを見た私だけの個人的意見に過ぎないが……

現在は自殺強要ストーキングとは無縁の人達も今後は分からない。

近隣トラブルや日常生活の中のトラブル・口論から、相手が悪かった場合に自殺強要ストーキング被害者に発展する危険も含んでいるし、日常の中に自殺強要ストーキング実行者側が紛れ込んで生活しているのだから。